



おしゃべりから生まれるもの

校長 平島幸江

いよいよ師走です。今年は長い夏、ちょっぴり晩秋、一気に冬、と季節の移ろいが急加速で進んでいます。体の調子を整えにくい日々が続いていますが、先月は、土曜参観や区児童音楽会、区球技大会と大きな行事を実施することができました。数年間実施できなかった学年の人たちと協力する、またその人たちの思いを受け取った当該学年が立派な姿で行事に参加する、そんな様子が見受けられ、大変感慨深い行事の再開でした。

さて、最近、朝会で漢字クイズを出しています。正解した児童には、こんなカードを手渡しています。ご家庭でも話題にいただいているようで嬉しいです。

子どもたちの正解を導き出すまでの過程を見ていて大変感心します。「インターネットで検索した」「漢字辞典で調べた」「家の人に聞いた」という子は、きっといるだろうと想像していましたが、積極的な子は私に直接「校長先生、ヒントをください。」と言ってきます。それでもわからない子は「あと一つヒントを！」と迫ってきます。もうそれ、完全にわかるでしょう、というくらいまでのヒントを引き出し、正解をゲットする強者もいました。

また、正解した子の後ろでひっそりと聞いていて、仲間に促されて小さな声で正解を告げてカードを受け取り、嬉しそうに両手で持ち仲間と肩を寄せ合いながら戻っていく子。正解への迫り方は、様々。でも、どの子も正解したいという欲求は旺盛で、子どもって本当にすごいな、すばらしいな、この知りたいという気持ち、「やる気」をいつも持ち続けられるように頑張らねばと新たな使命感を感じているところです。

朝会つながりで、もう一つ出来事がありました。ある日「校長先生、ぼくが調べたものを見てください。」と言ってきてくれる子がいました。A4判の印刷用紙など数枚の紙に鉛筆書きで、戦争について調べてきたものでした。とても丁寧にきれいな字でたくさんの方が書かれてあり、たいへん読みごたえがありました。中に「川崎大空襲」という言葉があり、思うところがあり話しました。「校長先生のお母さんは、この川崎大空襲で街が燃える真っ赤な炎を、夜中に疎開先の大山から見て、家族の無事を願いながら大泣きしていたと聞いたことがあるのよ。」と。するとこの子は「そうなんだ。」と受け取ってくれた後、「校長先生、ぼくはね、本当に暴力はいけないと思う。今も世界で暴力で争っているところがある。きちんとルールを決めたらいいのにな。」と力強い眼で語りました。とても感慨深い時間でした。子どもたちは、公平でまっすぐな心で日々過ごしていて、このまっすぐな心をいつまでも持ち続けていかれるよう頑張らねばと思った次第です。とても感動したので朝会で少しだけ紹介したところ、また別の子どもからも反響がありました。子どもたちとおしゃべりから大切なことを学び、気づかされましたし、おしゃべりから輪が広がってきています。

さて、今月はいよいよ令和5年の最終月です。児童向けには人権週間の取り組みとリンクさせていじめに関するアンケートや教育相談に取り組んでいきます。職員間で人権研修は積み重ねているところですし、児童の思いに寄り添った「傾聴」で心晴れ晴れで学校生活を送ることができるように取り組んでいきます。また、保護者の皆様には、年末のお忙しい中と恐縮ですが、各教室へ足を運んでいただき個人面談を実施いたします。お子様のために日頃お考えになっていることを、ご忌憚なくお話いただけたらと思います。また、保護者による学校評価アンケートも実施いたします。今年度の千秀小学校での「自分で考え」「表現する」ことに重点をおく取り組みに、ご意見ご感想をお寄せいただけますようどうぞよろしくお願いいたします。

正解

おめでとう！！

「零余子」

良く調べて難しい漢字を読むことができましたね！